

和歌山 人・もの・地域

和

n a g o m i

Vol.33
2017

特集

美しき国、 和歌山

*Landscapes
who loved wakayama*

知事対談 内山りゅう×仁坂吉伸

Awesome Products in Wakayama 【蚊取り線香】

People × Gourmet (辻の餅)

News topic (南方熊楠記念館)

わかやまに恋した人々 (田辺市龍神村)

プレミアム和歌山 (一六—八 夫 -minon-)

和歌山の自然の恵みと伝統の技、そして日常の美しい風景。和歌山県 定年やゆえん 1200年前から愛わられる。

南方熊楠生誕150周年

特集

美しき国、 和歌山

南方熊楠生誕150周年

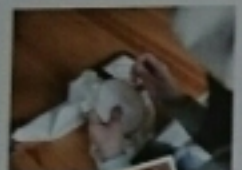
特集

美しき国、 和歌山

リラックスした暮らしに
自然と笑顔がこぼれる



天気がよい日には、奥まで通くことも多い。すぐそばまで、シホヤサカがやってくる。「奥家では通えられない環境」と知弘さんは笑う。静かしてから距離を始めたという知弘さん。どんなに忙しい日でも、美しい山や川の音、川のせせらぎが、ゆったりと一家を包み込んでくれる。



本島イタリア仕込みのパンは
上旬月の限定販売

小さなテーブルがあり、カフェも楽しめる。コーヒーや紅茶のほか、リンゴンベリージュース、うめジュースなどドリンクも揃え、2人で広さ切り盛りする。店の様やテーブルは、地元の木材を使って知弘さんが作った。

CONSERVA(コンセルヴァ)
住所 田辺市龍神村972-36
電話 090-4972-3760

かんぽつ製からペローネ、キウイまで、さまざまな種類のパンが並ぶ。パンの生地は、季節によって中身も変わる。この店が輸入食品やイタリアの量り売りしている。

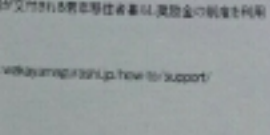
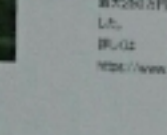
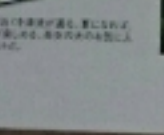
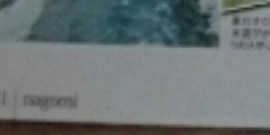
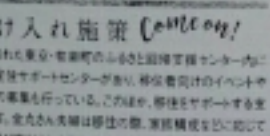
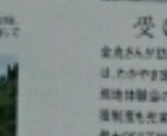
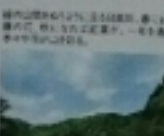
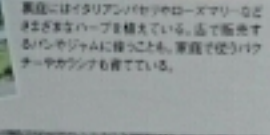
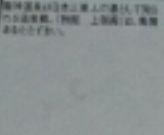
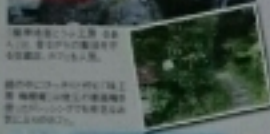
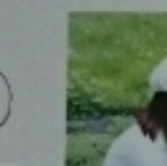
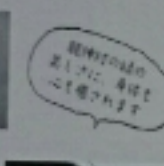
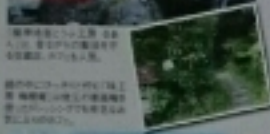
わかやまに恋した人々
知弘さん



田辺市龍神村
金丸 知弘さん
TORIHERO KANAMARU
東京都から移住

金丸さんの住む「龍神の家」には、6棟の住居があり、安色家や映像作家、エアプランアーティストらが住む。店名の「CONSERVA」は、イタリア語で保存することやジャンル、種類などをさすことばという。

わかやまでの日々の暮らしとまちプラ日記



受け入れ施策 Come on!

金丸さんが訪れた東京・世田谷区のふるさと回帰支援センター内には、わかやま支援サポーターセンターがあり、移住者向けのイベントや地域情報などの事業も行っている。このほか、移住者サポートする支援制度も充実。金丸さん夫婦は移住の際、支援制度などに助けて最大200万円が受けられる移住者住宅費は、奨励金の制度も利用した。

詳しくは
<https://www.wakayamagov.jp/how-to/support/>



都会暮らしからは何もかも一変。今では、どこに行くにも車がないと始まらない。「でも、渋滞がないから通勤は快適」と知弘さん。現在、介護関係のアルバイトをしながら資格取得を目指している。

村の大半を山林がしめる田辺市龍神村。山道を進むと、モダンなデザインのコゲハウスが現れる。山村定住促進を目的に建てられたアトリエ付き住宅「龍神の家」。その中の一軒、食品加工販売店「CONSERVA(コンセルヴァ)」には、リンゴとキウイ、イチゴと小豆といった珍しいコンビネーションの自家製ジャムがずらりと並んでいた。

「お湯がよくて、水がきれい。夏道を含めて、いろいろな種類のジャムが作れる。少量多品種の野菜や果物があるところ。その条件にぴったりなのが龍神村でした」と店を経営する金丸知弘さんは話す。

食糧増産ジャーナリストの父の影響で十代から食に感心を持ち、22歳でイタリアの外国人専門料理学校に留学、卒業後も現地の店で働いた。そのとき、無数のジャムやパスタ

ソースなど瓶詰食品の文化に魅せられ、自分でも作ってみたいと思うようになった。

帰国後、東京のイタリア料理店で働きながら、起業するための候補地探しでも立ち寄ったのが都内のNPOふるさと回帰支援センター。そこに講演に来た「龍神の家」に住む映像作家との出会いが人生を変えた。誘われて現地見学に来た日、妻のりささんは、彼を眺めるとひと口水をふくんで聞いた。「なんて、すがすがしい水。都会と全然ちがう」。その後、ほとんど相子に移住が決まった。

それから1年余り。ジャム作りや仕込みで、日によっては東京にいたときより忙しきときもある。「それでも全然ストレスがない」と2人。「当初は田舎暮らしに反対だった中学2年の長女が、「山があるってほっとするわ」って。ほんと、その通りだと思えます」と笑った。